

## 2015年度学校基本データ

【学校名】 東海大学附属熊本星翔高等学校

【所在地】 熊本県熊本市東区渡鹿9丁目1-1 (〒862-0970)  
Tel 096-382-1146

【創 設】 昭和36年(1961年)4月1日

【法 人】 学校法人東海大学  
東京都渋谷区富ヶ谷2-28-4 (〒151-8677)  
Tel 03-3467-2244

【理事長】 松 前 義 昭 (マツマエ ヨシアキ)

【校 長】 飯 田 良 輔 (イイダ リョウスケ)

【課 程】 全日制・普通科

【生徒数・学級数】 (内数で女子) 2015年5月1日現在  
募集定員400名

1 年	559名 (192名)	13学級
2 年	469名 (142名)	11学級
3 年	406名 (108名)	10学級
全 校	1,434名 (442名)	34学級

【教員数】 教職員合計101名

校 長	1名
教 頭	1名
教頭補佐	2名
専任教諭	44名
特任教諭	8名
非常勤講師	30名
事務長	1名
事務職員	5名
臨時職員	9名

【進路状況】 2014年度末累積卒業生数 (25,329名)

2012年度進路状況 卒業生342名

4年制大学 69% 短期大学 4% 専門学校 15% 就職 7% その他 5%

2013年度進路状況 卒業生333名

4年制大学 % 短期大学 % 専門学校 % 就職 % その他 %

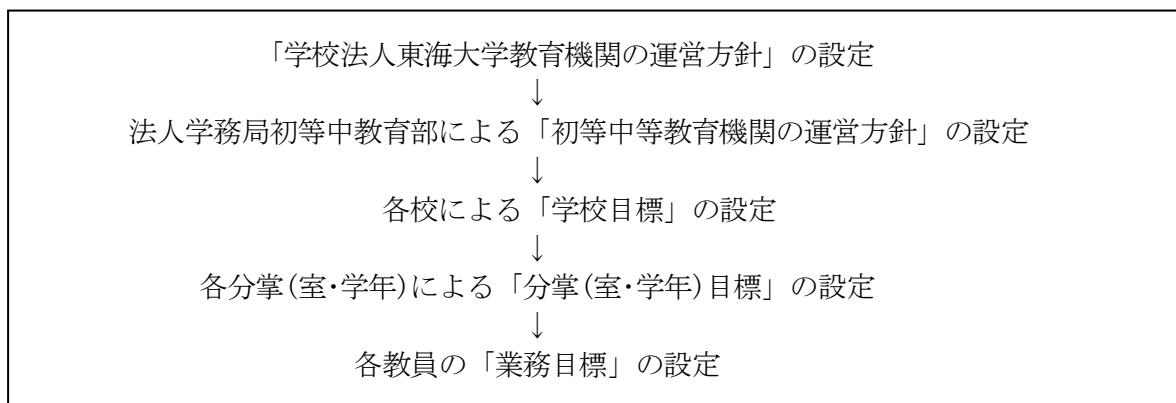
2014年度進路状況 卒業生468名

4年制大学 62% 短期大学 8% 専門学校 17% 就職 9% その他 4%

## 【学校目標】

### ●学校目標等の設定

本学園の附属諸学校では『建学の精神』の下、次のようなシステムで「学校目標」等を掲げて業務に精励している。



### ●学校運営方針

本校は、2012年4月1日から校名を東海大学附属熊本星翔高等学校として新しくスタートし、「真ん中に生徒～あなたの生きる力を支えます～」をスローガンに掲げた。2015年度もこのスローガンのもと、積極的な教育活動を展開して行く。

また、2015年度初等中等教育部の運営方針は、「経営の安定」と「教育内容の刷新」のための四つの柱、

- I 募集定員確保
- II 上級学校への内部進学者を一定以上確保＝達成値の実現＝
- III 部活動の奨励と推進
- IV 各校園の適正規模と教員配置 を継続されている。

これらの方針に沿った教育活動を実践することで、地域から高い評価を受けると共に、中学生や保護者に選ばれる学校づくりに邁進する。

また、本校の教職員は全員が運命共同体である「チーム星翔」として、以下の4つにある星翔生の育成を目指して、教育活動に真摯に取り組む。

1. 星翔生は「あいさつ日本一」を目指し感謝の心を大切にします。
2. 星翔生は「学習と部活動の両立（文武両道）」を実践します。
3. 星翔生は「フェアプレーの精神」で学校を元気に明るくします。
4. 星翔生は「最後まであきらめない・くじけない気持ちを持ち続けて」夢に挑戦します。

これらを実現させるために、あらためて教職員自らが本学園の建学の精神のもと、教育に携わる者としての自覚と責任を認識しなければならない。その上で、2015年度も生徒への「4かけ運動」（声をかける、手をかける、目をかける、心にかける）を推進する。

教育に一番必要なものは、生徒と教職員間の信頼関係である。日々の教育活動の中で、生徒と望ましい人間関係をつくり、保護者の協力のもと、生徒一人ひとりの成長を支え、希望を星につなげるための牽引役が私たち教員である。そして、本校で自らの「成長」を心から実感できれば、生徒は希望の星に向かって羽ばたいていく。

これらの教育活動を実現するためには、教職員自らの研修や勉強が必須である。私たち自身が今以上に努力して、授業や部活動指導、生徒や保護者とのコミュニケーションを向上させることで、本校の評価も高まり、しっかりとした学校運営ができる。

以上を実現するために、下記の2015年度学校運営方針（10の重点項目）について教職員全員が心一つにして実践する。

#### 1. 「真ん中に生徒」の高校教育を実現する

教育活動の中心は生徒一人ひとりである。学習や部活動、学校行事などの学校生活で、生徒が生き生きと活躍できるように、教職員はさまざまな角度からその環境を最適にして提供しなければならない。そして、生徒一人ひとりを自分の子どものように思い、愛情あふれる適切な指導を行わなければならない。それが、退学や留年をさせない教育につながる。そして、2015年度は「真ん中に生徒～あなたの生きる力を支えます～」を単なるスローガンに終わらせず、生徒の希望を星につなげるため、このス

ローガンを実現させる。そのことが私たち教職員の責任である。生徒のために真摯に全力で取り組む。

## 2. 募集定員を確保する

募集定員を確保するための課題は「専願生入試の志願者増」である。生徒募集活動で大事なのは本校の教育活動の充実とともに、部活動による星翔奨学生・野球奨学生の確保が鍵となる。星翔奨学生・野球奨学生の勧誘方法の検討や予算の見直しなど、専願生入試の志願者を増やすための手段を最優先で実施する。どんな良い教育も生徒がいなければ意味がないし、教職員としての本務を全うすることができない。2016年度入試では専願生入試の志願者を最低でも250名以上確保するために、出来ることは全て実施していく。ご協力をお願いします。

## 3. 「あいさつ日本一」を目指し感謝の心を大切にす

あいさつには、相手に対する敬意や思いやり、感謝の気持ちなどが込められており、人と人との関係で最も大切なものであることを、生徒一人ひとりに今一度良く理解させる。気持ちの良い挨拶を交わすことは、お互いの気持ちを前向きにし、積極的な高校生活をする意欲を起し、お互いの生きる力を支えることにつながる。そして、教職員自身が「あいさつ日本一」を目標に、率先して挨拶し生徒達をリードする学校にする。

## 4. 学習と部活動の両立を図る

### ①学習について（特に基礎学力充実のために）

1年生の数学の習熟度別授業をはじめ、各教科においても基礎学力を向上させる取り組みを今まで以上に推進させる。また、授業研究や教科指導の工夫、宿題の出し方なども具体的に教科会で検討する。他にも、家庭学習の習慣化、生徒同士による教え合い、学園基礎学力定着度試験対策なども実施する。更に、英語検定、数学検定、漢字検定、パソコン検定などの検定試験を今まで以上に積極的に取り組む。

### ②部活動・生徒会の奨励・推進、練習の工夫、学習指導などについて

高校時代には、部活動や生徒会活動をできるだけ多く経験させる。運動系・文化系の部活動や生徒会活動は、生きる力を育むための多くを学べるからである。そのためには、部活動の練習方法を今まで以上に工夫しメリハリある指導で成績向上を目指すのは勿論のこと（勝利至上主義ではない）、学習時間確保にも配慮し文武両道を実現する。顧問は部活動そのものの指導だけではなく、学習と部活動を両立させるためのアドバイスや指導も行う。

## 5. 「フェアプレーの精神」を理解させ、学校を元気に明るくさせる

フェアプレーには二つの意味がある。一つは「ルールを守り、相手を尊重し、ふて腐れないなどの行動としてのフェアプレー」であり、もう一つは「自分自身に問いかけたとき恥ずかしくない心（魂）、フェアプレー精神」である。どちらもスポーツを行うものにとって大変大事であるが、この二つは高校生活に通じるものである。フェアプレーの本当の意味を生徒達に理解させることによって、事件・事故を未然に防ぐ生活指導に繋げる。また、部活動による「モーニングクリーン」（校舎内清掃）や和室を使った「礼法教育」なども継続し、「心の教育」を高校生活でのフェアプレーにつなげる。

## 6. 部活動をさらに推進させる。

2015年度は更に部活動を活性化させる。基本的には、新入生全員が部活動や生徒会活動に参加するよう加入率100%を目指す。部活動を活性化させるためには、多くの方の応援も必要である。したがって、各部活動の試合日程や結果、展覧会などの情報を、職員朝礼の伝達事項に記入したり、電子掲示板やHP、集会などで生徒・保護者や関係者などにお知らせする。これらの活動により、今まで以上に生徒やPTA、星翔後援会・同窓会からの期待と応援の気持ちを高める。また、校長室を大いに利用して、入賞時などに生徒と顧問で来室してほしい。また、東海大学とくに熊本キャンパスと連携した指導も昨年以上に推進する。一方で、教職員は部活動費（部費・保護者会費等）の適正徴収と収支決算報告や監査など徹底して透明性を高める。保護者の信頼がなくては心からの応援や支援は得られない。

## 7. 進路指導の充実（「最後まであきらめない・くじけない気持ちを持ち続けて」夢に挑戦する）と達成値の実現

生徒一人ひとりの進路希望を実現させるには、教職員自身が指導できる準備を充分に行わなければならない。たとえば、東海大学の学部・学科の内容や違いなどの十分な理解が必要である。その上で、東海大学の良さを熱く語ってほしい。また、東海大学との連携を深め、進路相談室の生徒や保護者の利用を更に活発にする。東海大学関係へ進学する際の利点（入学金半額）や東海大学での学習内容、特許出願の多さ、就職の良さなど、定期的に必要とされる情報を保護者や生徒に周知する努力を怠ってはならない。

そして、東海大学への付属推薦達成値「65%」を実現させる。なお、国立大学や専門学校、就職などについても、学級担任や教科担当者は十分に情報収集し、適切な指導により生徒の夢を実現させる。

## 8. 教員研修の充実を図る

約17年間にも及ぶ長い期間、教育開発研究所で数学・英語・理科を中心とした研修が行われてきた。この財産を継続しながら、新しい校内研修のあり方を研究部が中心となって、早急に検討する。特に、授業評価アンケートの活用と公開授業は研修の要である。具体的には、授業を中心とした教科単位の研修会は勿論のこと、現場で求めている研修を積極的に取り入れる。たとえば、東海大学との連携による進路指導の勉強会、生徒指導の研修会、不登校対策、コミュニケーション力向上、保護者との話し方など、「真ん中に生徒～あなたの生きる力を支えます～」のスローガンを実現するために、私たちが多くを学びそして教育力を向上させることは教職員の責任である。

## 9. 保護者や関係者との協力関係を推進する

生徒の教育は、教職員だけで行えるものでなく、保護者や多くの関係者また地域の協力などがなければ不可能である。協力を得るためには、学校の教育方針や現在の生徒の問題点などを、保護者へは勿論のこと、関係者や地域にも十分に理解して貰わなければならない。そうすることが、「真ん中に生徒」の教育につながっていくと考える。保護者会や第三者評価委員会、星翔後援会や同窓会、地域の方々などとの協力体制を十分に確立するためにも、保護者の方が是非行きたくなるような保護者会を実現することや、学校評価などを利用して多くの意見を真摯に受け止め、学校の発展につなげていく活動を推進する。

## 10. 2016年度より完全学校6日制実施に向けての準備を進める

完全学校6日制は「生徒の生きる力を支える」ための方法であると考えられる。本校でも学力低下が懸念され、生活習慣が確立されていないと感じる生徒が多いからだ。授業時間を増やすことが学力向上に直結するわけではないが、その効果はあると思う。また、生活習慣改善プロジェクトの積極的運用と併せて、部活動の効率的・効果的な強化方法も検討しなければならない。これは東海大学体育学部との連携や長期休暇中の活動促進などを具体的に検討し速やかに行動に移す。

いずれにしろ、2016年度完全学校6日制実施に向けて、今年度は実施に向けての生徒・保護者への説明や実施内容の準備を進める中で、教職員全員のご協力をお願いする。

以上